

海外短信

上海に赴任して



宮崎 大誠*

春の柔らかい日差しに霞んで見えるのは、川沿いに点々と植えられた柳の深緑と木造の小さな手漕船。兩岸は、ようやく温かくなってきた上海の週末を楽しもうと、家族連れやカップルで溢れている。絵に描いたような春の晴天ではあるが、この日のPM2.5の濃度は170マイクログラム(1㎡あたり)を超えていた。目に見えない粉塵が混じる空は少し灰色に霞がかっていたが、それでも久しぶりの休日は心が和む。

3月、土曜の休みを利用して、上海市内の自宅から家族5人で高速バス1時間半ほどの景勝地「西塘(シータン)」を訪れた。昔ながらの風景が残るのどかな水郷地帯。ここは、映画「ミッション:インポッシブル3」の撮影舞台にもなったところである。主演のトム・クルーズが古びた川沿いの通りを激走したところだ。

1. 長崎県上海事務所

私が上海に赴任したのは、平成24年の4月。その後の2年の間に、長崎上海航路(オーシャンローズ)の就航、長崎~上海航空路(中国東方航空)の週3便化、尖閣諸島問題に端を発する反日デモ発生による日中交流の停滞、その後の長崎上海航路の運休や長崎上海航空路の週2便への減便、習近平国家主席・李克強総理の新

体制のスタート、日本の政権交代とその後の急激な円安など様々な出来事があった。目まぐるしく動く日中関係の動向を見極めつつ、当事務所は日々走りながら仕事をしている。

当事務所は社団法人長崎県貿易協会の上海事務所として、1991年に設立された。長崎県と中国との交流促進を目的に、これまで培ってきた人脈を活かしながら、県内企業の中国ビジネス支援をはじめ、県産品の販路拡大、中国人観光客誘致、航空路線の維持拡大、友好都市交流の促進、各種情報収集と提供、長崎県の総合的なPRなど、幅広い分野において様々な活動を行っている。

また、上海在住の長崎県出身者を中心に組織する長崎県人会の開催や、企業間のネットワークとして構築した「長崎県中国ビジネスネットワーク」の運営など、長崎県関係者や本県企業等のネットワーク構築も行いながら、様々な活動を積極的にサポートしている。

現在、事務所では、長崎県からの派遣職員(所長)と十八銀行からの派遣職員(副所長)の日本人2名に加え、現地スタッフ3名と顧問1名の中国人4名の合計6名。本県経済の活性化を推進するとともに、本県と中国との友好関係強化を図るため、所員一同がきめ細かな対応を行っている。

*長崎県上海事務所長

本県企業や本県関係者におかれては、中国に関する業務や活動などがあれば、当事務所を気軽に利用していただきたい。

2. 上海の状況

長崎から上海までは約800キロメートルの距離にあり、東京までよりも近い。長崎空港から飛行機（中国東方航空）で約1時間半もあれば着く。

上海には登録者ベースで約5万人の在留邦人が暮らしており、長期滞在者や出張者、旅行者を合わせると10万人を超える。世界でも最大規模の日本人居住都市である。

日本からの企業進出が相次いだ近年では、上海日本人学校の規模は2位のバンコク校を超えて世界一となっており、小・中学校合わせて3000人を超える生徒数に加え、世界で最初に設立された高等部も併設されている。

現在、我が家の3人の子ども達は、日本人学校ではなく現地の小・中学校に通っており、毎日中国語と中国人に囲まれた生活を送っている。中国の学校教育は日本よりも1～2年ほど先を進んでいる。上海は昔から外国との交流が盛んな土地柄であり、特に英語教育が熱心に行われている。子ども達は、小学校1年から授業で英語を学び、大学生にもなると専攻分野に関わらず、ほとんど全員が流暢に英語を操ることができるようになる。

中国の大気汚染は日本でも報道されているが、実際に日本に比べると上海の空気は確かに悪い。上海のテレビでは毎朝の天気予報に加えて、PM2.5濃度の速報も行われている。水と空気はタダというのが当たり前だった日本での生活が、中国に来ると貴重な状況だったということがしみじみと感じられる。しかし、通勤時の

中国人を見ていると、マスクを着用して外出する人はほとんどいない。老人も子どもも、現在の環境の中で普通に暮らしており、日本での報道などと比べると若干温度差がある。

基本的に上海人は日本人に好感を持っている。実際に上海に駐在して感じる感覚であるが、近年の日中関係の緊張や、連日の日本の政治家の動向等に関する刺激的な報道、一昨年の反日デモなどがあつたにも関わらず、ほとんどの上海市民は、日本製品を愛用し、街にはトヨタやホンダなどの日本車が目立っている。また、特に若者は日本のアニメや漫画などを好んでいる。書店に行けば、売れ筋商品の棚は、中国語に翻訳された村上春樹や東野圭吾などの作品が多数並んでいる。

3. 上海の特徴

上海に住んで驚くことは多い。上海に建設された高層ビルは数も高さも世界有数であり、特に浦東地区の超高層ビル群は未来都市さながらの光景。なかでも、492mの上海森ビルの隣に現在建設中の上海中心（上海タワー）は完成すれば中国一、世界で2番目に高いビルとなる。そして、ベンツやBMW、レクサスはもちろんのこと、フェラーリやランボルギーニなどの高級車もよく見かける。

上海の地下鉄は現在14本の路線が開通しており、今後もさらに6本の路線が建設される予定である。路線総延長は500km以上で、東京、ニューヨーク、ロンドンを抜き世界一と言われている。上海地下鉄の営業開始は1995年で、開通してからまだ20年も経っていない。ちなみに、上海の地下鉄の初乗り料金は3円で、距離に応じて4元、5元...と1元刻みで加算される。

上海の料理は甘い。豚肉も野菜なども、大量

の砂糖と醤油で甘く煮込んだものが多い。これは、上海が長崎と同様に、歴史的に外国との交流で栄えた街であり、高級品だった砂糖が大量にあることで、食文化にも影響を与えたものと思われる。

私は以前、北京で標準語（北京語）を勉強したことがあるが、上海で昔から使われている上海語と標準語の違いに、赴任当初は大変驚かされた。20年ぐらい前までは北京人と上海人の会話も困難だったようだが、近年では、テレビやインターネットなどの影響からか、上海の若者も標準語をよく使うようになってきており意思疎通は問題ない。

4．おわりに

古くから外国との交流で栄えてきた上海の人は、昔も今も日本に慣れており、他の都市や地域に比べ、日本人や日本文化を理解していると感じる。

近年では、以前は受け入れられにくかった刺身や寿司も、上海の至るところで普通に味わえる時代になっており、日本料理店には日本人駐在員に限らず、中国人のお客さんも多い。長崎鮮魚の中国輸出は、輸出量・輸出金額ともに過去最高を記録しながら成長を続けている。

語学力も含めた国際人材の育成は、将来の地域の発展を保证するための基盤づくりであると考え。長崎県は地理的にも歴史的にも上海に近く、現在、中国で活躍する長崎県人も少なくないが、一方で、中国にいる長崎県の若者が比較的少ないと感じられるのは残念なことである。

現在の世界のグローバル化の中で、長崎県や日本が発展していくためには、これからの社会を支える世代が、若いうちから積極的に海外に

目を向けていくことが肝心である。海外に出てみると、これまで見えなかったことを新たに発見したり、長崎県の素晴らしさに気付くこともある。

本県の将来を担う若い世代が、中国など海外にも視野を広げながら、積極的に国際交流を体験し、将来、国際人材として活躍することを期待したい。